

22O-pm19

マツリカ (*Jasminum sambac*, 花部) より単離した新規セコイリドイド配糖体成分の化学構造

○井上 尚樹¹, 二宮 清文^{1,2}, 吉川 雅之¹, 村岡 修^{1,2}, 森川 敏生^{1,2} (¹近畿大・薬総研, ²アンチエイジングセ)

【目的】マツリカ (*Jasminum sambac*) はモクセイ科 (*Oleaceae*) の熱帯性常緑低木であり、東南アジアからヨーロッパに広く分布している。夏に白色の花を咲かせるマツリカは、フィリピンでは *sumpaguita* と呼ばれ、インドネシアと同様、国花として親しまれている。マツリカ花部は、飲料としての利用の他、精油が香料として用いられている。これまでにマツリカ花部の含有成分として、セスキテルペンやセコイリドイド配糖体などが報告されている。マツリカ花部は中医学では下痢、腹痛や結膜炎を治し、アーユルヴェーダー医学では坑潰瘍、抗がん、坑ハンセン病、皮膚疾患や傷の治療などにも利用されている。

今回、マツリカ花部の含有成分の更なる精査を目的に、成分探索を実施した。

【結果・考察】広西省産マツリカ花部を MeOH にて還流抽出して、MeOH 抽出エキスを得た。得られた MeOH 抽出エキスを水に懸濁した後、EtOAc にて溶媒分配を行い脂溶性分画である EtOAc 移行部と水層を得た。得られた水層を Diaion HP-20 カラムに付し、水溶出部と MeOH 溶出部を得た。得られた分画について順相および逆相カラムクロマトグラフィー、次いで逆相 HPLC にて繰り返し分離・精製した結果、新規セコイリドイド配糖体 **1** および **2** を単離・構造決定するとともに、既知化合物であるセスキテルペンおよびセコイリドイド配糖体などを単離・同定した。今回、単離した **1** および **2** の化学構造は各種スペクトルデータの解析および化学反応の結果により明らかにした。

